

学生と住民との対話による持続可能な地域密着型集合住宅の計画

指導教員 石川工業高等専門学校 建築学科 教授 熊澤栄二
参加学生 酒井智央・新井圭那・河野奏・三井紀乃・山田美沙

1. 活動の成果要約

全国優良活性化事例として公開された調査を基に、過疎高齢化に対応した地域活性化活動の戦略の型を明らかにし、以て活動フィールドである刈安校区が採るべき戦略（地域戦略Ⅲ、Ⅳ型）を明らかにした。また令和2年の道の駅・集合住宅案を基に、さらに設計レベルを上げ建設費積算を実施した。タウンミーティングを年間2回実施し、建設に向けた住民合意を図り、報告書としてまとめ3月には津幡町長への報告と説明会を予定している。

2. 活動の目的

中山間地域に位置する刈安地区は交通の要衝地にも拘わらず過疎高齢化が著しい。平成バブル期には、津幡俱利伽羅バイパス沿線に集合住宅計画が存在したが、地権者の問題により頓挫したまま放置されている（課題1）。また刈安校区は過去10年間に住民が1,000人から800人に、刈安小学校児童数も現在27人まで減少。高齢化率は43.4%で毎年1%ずつ上昇、高齢化率50%を超える限界集落まで残り数年に迫っている（課題2）。

以上の課題を踏まえ熊澤ゼミの活動は、令和2年度の集合住宅の基本プラン策定の成果を受け、1. 刈安地区に最適な地域活性化の戦略の決定、2. 建設費の積算が可能な設計の実施、3. 建設検討委員会の設置を目指す。

3. 活動の内容

熊澤ゼミでは、次の5つを今年度の活動として設定した。

①全国の活性化事例の分析

全国において過去に行われ、かつ、省庁によって優良事例として公開されている地域活性化を目的とした活動事例を収集・分析することで地域に適した地域活性化活動の方向性を検討する。

②集合住宅建設の基本計画および実施に向けた積算

津幡町刈安校区内に今後の中山間地域における新しい暮らし方の概念「Compact Village」を適用した住宅地域および道の駅の建設を計画する。基本計画を行った後、実施化に向け計画案の詳細化・建設費用の見積もりを行う。計画案の作成では専攻科2年生がプロジェクトマネージャーとして全体を取りまとめ、本科4年生を中心に具体的なデザインの検討を行った。

③タウンミーティングの開催

建設計画について住民との定期的なタウンミーティングの開催。

④建設検討委員会の設置

計画案を基に、各ステークホルダー間の調整、返済計画を含む収支計画、建設計画、都市計画などの調整を行い、建設ロードマップを設定。

⑤事業報告書の作成および津幡町への報告

建設計画を事業報告書としてまとめ、津幡町に報告および提案の実施。

①活性化事例の分析：7～12月 延べ90人（2名×週2回）

・活性化事例の分析

総務省・農林水産省・内閣府によって優良事例として過去 5 年以内に公開された 78 件の地域活性化事例について、公開資料から地域の特徴・活性化活動について分析を行う。また、対象事例の団体にアンケート調査を依頼し、地域の課題についても調査した（令和 3 年 7～9 月実施。76 団体に依頼、40 件の回答を回収）。そこで得られた知見や傾向を基に、今後の刈安校区の活性化の戦略として検討した。

・5つの型

分析の結果、対象の規模・交通基盤・立地条件・人口の4つのカテゴリー【表 1 参照】を基に地域を分類し、地域の課題・活性化活動に対して特に傾向の見られる 5 つの型を決定した。【表 2】

・刈安校区への適用

5 つの地域の型のうち、刈安校区はⅢ型とⅣ型に分類することができた。Ⅲ型とⅣ型に分類される地域は日常的な移動や買い物の場所、福祉サービスに対する不足感など生活環境に関する課題や地域内の空き家を気にしている傾向がある。活性化活動としては商店などの店舗の運営や外部団体の誘致、移住支援などが挙げられる。

刈安校区では既に住民の要望として道の駅が検討されているが、調査から得られた結果を踏まえ移住支援が今後の施策として重要であることを明らかにした。

②集合住宅の基本計画および実施に向けた積算：

基本計画 4～12 月 延べ 360 人（5 名×週 2 回）積算 1 月～2 月 延べ 40 人（熊澤ゼミ 2 名、企業 3 名×週 2 回）

・Compact Village による地域構想

中山間地域における新しい地域計画として Compact Village（以下、CV）を提案する。CV とは「共有」をキーワードに地域を集約し、住み継がれ続ける地域を目指す地域戦略である。今回の計画では倶利伽羅駅を軸に、国道 8 号線と IR いしかわ鉄道の間に道の駅、国道 8 号線の北側に住宅地域を計画し CV 化の実例とする。【図 1】

・住宅地域

住宅地域では住民がライフスタイルに合わせ住宅を住み替えることで持続的な地域運営を図る。専用住宅 11 棟、シェアハウス 2 棟、そのた地域農園や広場を計画した。デザインとしては個人という最小単位から地域までが段階的につながることのできる空間構成を目指す。【図 3】

・道の駅

道の駅のデザインコンセプトは「倶利伽羅のリビング」として、地域の住民や国道 8 号線を通る人々が気軽に集

規模	規模A	対象地域が市町などの行政区全体に及ぶ地域
	規模B	対象地域が市町のうち特定の地区のみである地域
交通	交通A	鉄道駅および国道の両方を有さない地域
	交通B	鉄道駅および国道のいずれか片方を有する地域
	交通C	鉄道駅および国道の両方を有する地域
立地	立地A	近隣の市街地とほぼ同一の地域
	立地B	近隣の市街地までの距離が10km以内の地域
	立地C	近隣の市街地までの距離が10km以上20km以内の地域
	立地D	近隣の市街地までの距離が20km以上および離島の地域
人口	人口A	対象地域の人口が300人以下の地域
	人口B	対象地域の人口が301人以上1000人以下の地域
	人口C	対象地域の人口が1001人以上5000人以下の地域
	人口D	対象地域の人口が5001人以上10000人以下の地域
	人口E	対象地域の人口が10001人以上の地域

【表 1】 地域を分類するカテゴリー

型	地域の分類	課題の傾向	活動の傾向
Ⅰ	規模：A	地域文化の継承	観光の促進
	交通：B・C	耕作地の荒廃	魅力の伸長
Ⅱ	規模：B	買い物の場がない	店舗の運営
	交通：A	空き家の増加	移住の促進
Ⅲ	規模：B	地域活動の衰退	交通支援
	立地：C・D	空き家の増加	企業・団体の誘致
Ⅳ	規模：B	福祉支援の不足	店舗の運営
	人口：B・C	空き家の増加	移住の促進
Ⅴ	立地：C	福祉支援の不足	企業・団体の誘致
	人口：C	地域文化の継承	特産品の活用
刈安校区の場合：規模B/交通C/立地C/人口B ⇒Ⅲ・Ⅳ型			

【表 2】 活性化活動における 5 つの型



【図 1】 Compact Village による地域構想



【図 2】 計画案作成の様子（4 年生 4 名）

まり、交流できる場所を目指す。主な機能としては売店や観光案内所、食堂、トイレ、地域の学童、倶利伽羅駅を基点としたパークアンドライドも可能とする駐車場(120台)などがある。【図4】

・基本計画の実施に向けた建設費積算

基本計画に対して、地元の設計事務所・建設会社の協力のもと実施化に向けた詳細検討や計画に要する費用の見積もりなどを行っている(2月完了予定)。【図5】

③タウンミーティングの開催：

6月3日(熊澤ゼミ6名、住民6名)、12月2日(熊澤ゼミ6名、住民20名)

「倶利伽羅を愛する会」(以後、「愛する会」)を中心に、建設計画について住民と石川高専との調整が図られた。

6月3日には、オンラインにて第1回タウンミーティングを開催し、昨年度までに行われた活動の報告と基本計画案についての意見交換会、令和3年度の活動方針の確認を行った。

12月2日に刈安公民館で第2回タウンミーティングを開催した。ここでは学生が取りまとめた基本計画の詳細検討・見積もりを行うべく、住民に対して基本計画を発表し質疑応答を行った後、町への提言を図る旨、決議した(尚、2月に最終報告会を予定)。

④建設検討委員会の設置

本年度はコロナ禍による活動制限などから開催が見送られる結果となった。

⑤事業報告書の作成及び津幡町への報告

今年度までに行った調査結果や建設に関わる計画案、見積もりなどを報告書としてまとめ、津幡町への提言を今年度の活動の最終目標とする(3月報告会開催予定)。

4. 活動の成果

<活動のまとめ>

活動1：活性化事例の分析

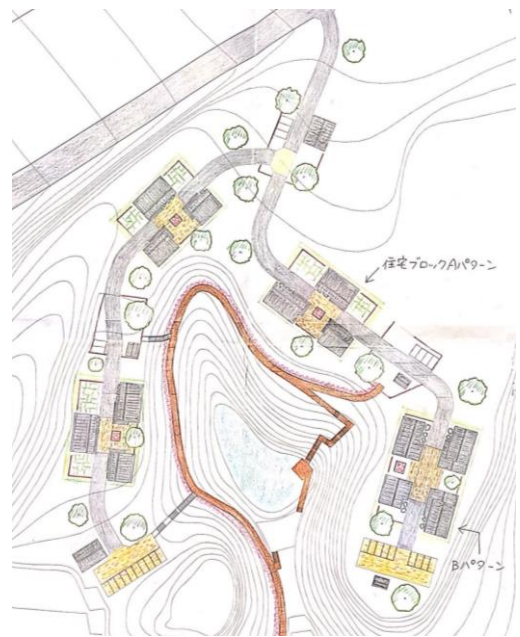
過去の地域活性化優良事例の分析を行い、活動の型を明らかにした。

活動2：基本計画の実施に向けた建設費積算

集合住宅の基本計画をまとめた。住民から計画の承認が得られたので現在は実施に向け詳細検討や見積もりなどを行っている。

活動3：地域の方との活動を通じた交流

活動を通して、地域の方には意見交換会だけでなく、地域の歴史についての話しや薪割の体験など貴重な体験をさせて頂いた。



【図3】 住宅地域のイメージ



【図4】 道の駅のイメージ



【図5】 打合せの様子(学生1名、企業3名)



【図6】 タウンミーティング(12/2)

<貢献事項>

学生が主体となって地域の将来像を構想することで地域として進むべき方向性を示すことができた。

<本事業の成果>

I. 地域に適した活動の方向性を判定

事例分析より、地域が行うべき活性化活動の戦略を示すことができた。

II. 建設の基本計画の完成

昨年度より行っていた基本計画案が完成し、住民の合意形成を図ることができた。また、建設費用の積算を通して建設に向けた具体的な課題を明らかにした。

III. 構想の実現化に向けたきっかけづくり

長年にわたり建設の計画がとん挫している状況であったが、住民が主体的に町に働きかけ、建設への提言を行う流れを形成できた。

5. 次年度以降の計画

計画1：建設検討委員会の開催

今年度は開催が見送られた建設検討委員会の開催ならびに建設建設ロードマップの策定を行う。

計画2：タウンミーティングの定期開催

今後も建設計画に関して定期的な報告や意見交換をゼミと愛する会によって行う。

6. 活動に対する地域からの評価

刈安公民館長 酒井 菊治 氏

昨年に続き新型コロナウイルスの感染が収束しない中、活動が制約された。そのような中でも、学生たちはよく頑張って計画を進めて頂いた。

地域への報告発表の際には、住民の意見も今後検討して活かしていくなど、地域と一体となり計画を進めてもらっている。これからこの計画を実現するには多くの課題がありますが、学生たちの柔軟な発想と地域住民の協力、関係機関との連携で取り組んでいきこの計画を少しでも現実にできるよう進められればと思います。

倶利伽羅を愛する会会長 吉田 暁 氏

なかなか会員全体で応援は出来ない現状ですが、12/2 公民館で開催したゼミの皆さんの報告会で、地元の会員から寄せられた“地元としては道の駅・集合住宅建設の案件は素晴らしいし、是非実態が見えるように進めて欲しい”との意見が出ました。席上、しっかりとしたデーターを取り揃えて熊澤ゼミと倶利伽羅を愛する会のメンバーが揃って行政側に説明に行く事にとしました。

このことで、本年 1/7 公民館で長寿会主催の「町政教室」を開催し、この席上住民の方から地域で取り組んでいる熊澤ゼミの内容を話されました。町側から矢田町長、吉岡産業建設部長、向町議の出席の中で、12/2 熊澤ゼミと倶利伽羅を愛する会の合議事項を矢田町長に伝え、データーを揃えて直接お目にかかってお話ししたいと伝えてあります。



【図7】 作成した資料（一部）

住宅地域	ファミリー用（3LDK 延床面積 93㎡ 4人）× 6棟 2人暮らし用（1LDK 延床面積 66㎡ 2人）× 5棟 シェアハウス（6LDK 延床面積 192㎡ 6人）× 2棟
	敷地面積 7918㎡ 延床面積 800㎡ 売店：120㎡（倉庫別） 駐車台数：乗用車120台 中型車12台 大型バス3台 トイレ：男女兼用個室22基 男性用小便器8基

【図8】 住宅・道の駅の規模